

# ひとり旅のススメ

映画「男はつらいよ」のフーテンの寅さんは、旅先で美しい人に一目惚れ、失恋すると愛用のトランクひとつで再び旅に出る。寅さんは、旅情を楽しむだけでなく、自分をみつめ、出会いの人と会話をすする。何ともうらやましい生き方です。

## 旅の流儀は深呼吸から

わたしのひとり旅の流儀は、まずは深く深呼吸から始まりです。もちろん軽装。電車やバスに乗りながらキョロキョロする。気が向いたら途中で降り、とにかく気楽。気分転換になる。知らない土地に一人でいる自分に酔う。

よく利用したのが、スルツと関西3dayチケット。広いエリアの私鉄で使える乗り放題切符でした。高野山や姫路城へ気軽にかけました。とくに、滋賀県の季刊誌「湖国と文化」(植田耕司編集長)の企画特集で知っ

た大津市の坂本は石工集団穴太衆(あのうしゅう)の石積み町、比叡山登山口としても有名です。

戦国時代、織田信長が比叡山延暦寺を焼き討ちにした際、その石垣の堅牢さに驚いたそうです。

# 焦土から甦る広島

すでに後期高齢者で若くはないが、青春18きっぷを利用しての旅や深夜発、早朝着のバス旅も使います。

この一人旅で広島では原爆ドーム、平和記念資料館を見て回り、休息は野球のカープとともに有名な伝説の名曲喫茶ムジカで濃密なコーヒーを飲みました。昭和20年8月6日朝、米

## 生きてさくらを見たい



ぎのひとり旅。本音で言うと、疲れました。

先日、90歳の知人が延命寺の先の鳩原の郷、千早口まで、なんと1万歩あるいたそうです。彼は自分の体力の限界を知りたかったと自慢げに話していました。が、娘さんに後で叱られたそうです。収穫したふきの根を、指先を青くして切り揃えていました。

日本の四季はありがたいものです。ことしも、サクラの季節が訪れました。

ひとは生涯に何回ぐらいさくらをみるのかしらものごろつのが十歳ぐらいなら。どんなに多くても七十回ぐらい。三十回、四十回のひとつも。なんとという少なさだろう

わたしは春が来ると、詩人茨木のり子の「さくら」という詩を思い出します。

(羽賀 敬晃)

軍による原爆投下で14万人が亡くなった。広島市は廃墟、75年間、草木もはえな。いと言われました。終戦の翌年、昭和21年に焼け野原に初代店主がバラックをたて、戦災から残った蓄音機にクラシックレコード、そしてペートーベンの漆喰のマスクを店内装飾に開店しました。

焼け跡のバラック小屋から流れるペートーベンの「第九」の音楽に吸い寄せられた画家や建築家、文化人たち。彼らは焼け野原のこの溜り場で、広島復興の議論を深めたそうです。帰路は、小津安二郎の映画「東京物語」、放浪記の林芙美子が過こした尾道の猫の坂道を訪ね、欲張りす